

茅風



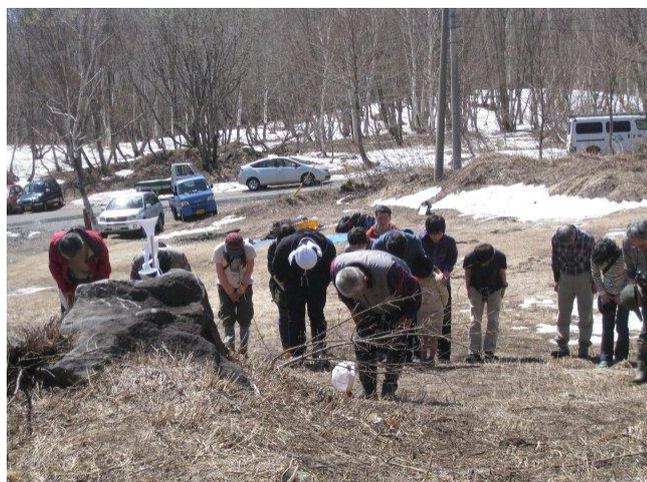
— Breeze from the field of thatch-grass —

2012年5月28日

森林塾青水

事務局便り

茅風通信 36号



4月28日「山の口開け」

- ◆1月～5月の活動報告(事務局).....1
- 第11回「総会」報告(事務局).....2
 - ・2012年度の主な活動計画・日程と新任幹事紹介
 - ・セミナー「山を耕す～利用し活かして元気に～」海老沢秀夫
- 東京楽習会報告「茅葺き文化の継承とこれからの茅葺き」
- 第9回「全国草原サミット in みなかみ」開催案内
- 11年度講座「コモンズ村ふじわら」⑧参加者レポート.....3
 - ・しんしんと降る雪の中の情景(古高利男)
 - ・「雪ほり」の意味が分かりました(石原光恭)
 - ・冬のみなかみ(福島さら)
- 12年度講座「コモンズ村ふじわら」①、②参加者レポート...5
 - ・地域の人々とのコミュニケーション(中島郁生)
 - ・学生プロジェクトチーム(旧・学生部)の決意表明と感想(石原光恭、保莉凱人、長島 匠)
- ◆藤原の“ほっと”ショット・コーナー②(中村智子).....7
- 編集後記～塾長のつぶやき～.....8

■ 1月～5月の活動報告

事務局

- 1月29日:東京「学習会」開催。日本茅葺き文化協会・上野弥智代理事をお招きし、「茅葺き文化の継承とこれからの茅葺き」をテーマに学習。参加17名。(詳細→3頁ご参照)
- 2月12日～13日:講座「コモンズ村ふじわら」⑧開催。毎年好評の『かんじき雪原トレッキングとポタづくり』。参加17名(日帰り4名含む)。(参加者レポート→3頁ご参照)12日夜は、地元から三郎さん、惣一郎さん、親男さん、一幸さん並びに町役場から真庭課長、木村SGL、西山さんにご足労いただき、過年度の活動の振り返りと新年度の課題、活動計画など検討、共有。
- 3月21日みなかみ町役場にて開催の「草原サミット実行委員会」第2回に出席(清水)。準備活動の在り方、開催地・みなかみ町/藤原集落の特色として何をアピールするべきか、など参考意見を述べる。
- 3月28日:学生部・石原光恭さん並びに早稲田環境塾・吉川POと打合せ(清水)。新年度における学生部活動のあり方、具体策などにつき意見交換、検討。
- 4月16日:早稲田環境塾の原塾長(当塾・最高顧問)、吉川POと浅川、清水にて、新年度のコラボレート活動並びに重点事業のあり方につき意見交換、合意形成。
- 4月21日:第11回「総会」。正会員21名(委任状22名)に加え、町役場から環境課(機構改革により4月から当塾の担当窓口)須藤課長・木村SGLのご臨席と一般会員5名、計28人の参加をいただき開催。於いて、原宿・環境パートナーシッププラザ。特別セミナー「山を耕す～利用して活かして元気に」を併催。(詳細報告→2頁ご参照)
- 4月28日～29日:オープニングプログラム・講座「コモンズ村ふじわら」①開催。春の恒例「山の口開き」行事

と防火帯づくり作業。一畝田「古民家」2階に積りつもっていた百年の塵芥も、大勢で寄ってたかって片づけました。参加33名(日帰り15名、含む)。(参加者レポート→5頁ご参照)

- 5月12日～13日:「講座コモンズ村ふじわら」②開催。参加7名(うち、大学生3名)にて、防火帯づくりとフットパス「木馬道」ルートの設定作業。『昆虫保護条例』指定地の表示看板(写真下)も取り付けました。(参加者レポート→5頁ご参照)



- 5月14日:みなかみ町役場を訪問、岸町長並びに関係各課長・スタッフ方に過年度の活動報告と今年度事業計画につき説明、協力方お願い。特に、草原サミットに関する事前準備活動のあり方につき、参考意見を具申(清水)。
- 5月19日。麗澤学園「樹木観察会」。当塾・高野幹事以下スタッフ8名並びに日大・生物資源学部学生諸兄30余名にて、中学1年生160余人を対象に実施。

■第11回「総会」開催報告

－新年度活動計画・日程と特別セミナー 事務局

4月21日、清水議長進行のもと浅川幹事(事務局長)より、過年度活動の実績と決算並びに新年度の活動計画と予算の報告があり、いずれも満場一致で承認されました。以下、新年度の主な活動計画・日程と執行部の顔ぶれ、併催された特別セミナーの内容をお知らせします。



◆2012年度の主な活動計画・日程

－水源地域の環境資源を持続的に利用する「流域コモンズ」の形成を目指す「新しい10年」の2年目。主な活動計画・日程は9頁に記載の通りです。ご覧ください。
－それぞれの活動の参加者募集案内は、開催予定日の1カ月前を目途にお届けします。興味のあるプログラムは、予めチェックして予定に入れておいて下さい。

◆新年度の執行態勢～新任幹事の紹介

－活動推進の裏方を務める幹事・オブザーバーを紹介します。さらなる若返りと地元シフトを計りつつ、役割分担を明確にしました。ご志援ご指導の程お願いいたします。

- ・浅川 潔 (幹事～事務局長、草原サミット・リーダー)
- ・石原光恭 (幹事～学生プロジェクトチーム・リーダー)
- ・稲 貴夫 (幹事～啓蒙・情宣)
- ・海老沢秀夫 (幹事～講座「コモンズ村ふじわら」統括)
- ・岡田伊沙子 (幹事～自然ふれあい環境学習)
- ・木村伸介 (オブザーバー～町役場窓口)
- ・北山郁人 (幹事～みなかみ事務所長、古民家再生)
- ・草野 洋 (塾頭～統括補佐、流域コモンズ)
- ・清水英毅 (塾長～全般統轄、外部連携グリップ拡充)
- ・高野史郎 (幹事～自然ふれあい環境学習)
- ・増井 太樹 (幹事～研究・リサーチ、事務局補佐)
- ・吉野一幸 (幹事～地元代表、ビデオ、古民家再生)
- ・林部良治 (監事～会計)

(青字表記の2名は新任です。よろしくお願ひします)

◆特別セミナー:山を耕す～利用し活かして元気に～

講師:海老沢秀夫(森林文化協会、当塾・学監)

使われなくなった野や山も、もういちど人が賢く利用することができればよみがえる。多様な人が手を結び、いろいろなやり方があちこちで試みられている。上ノ原でも参考になるアイデアがあるかもしれない。いくつかの事例を取り上げ、みんなで考えてみたい。

<キーワード>

- ①生態系サービス(自然の恩恵、生物多様性がつくる生態系の人間に対する恩恵)
- ②人システム
- ③システムを動かす駆動力

事例報告

■宮城県川崎町:EIMYプロジェクト

薪ストーブのユーザーやストーブ販売店などが「川崎-仙台薪ストーブの会」を結成。町有林の立木を買い取り、伐採、玉切り、薪割りのほか、里山再生調査、生物多様性調査、技術講習会、研修会、自然観察会などを実施。会の共有の薪をつくる作業では、1束分地域通貨「1きもち」がもらえる。仙台市に隣接し広大な山間部の広がる川崎町で「100年後に食とエネルギーを100%自給する町」を目指すNPO「川崎町の資源を生かす会」が母体組織。

■栃木県茂木町:雑木林を経済林に

県の自然環境課と地元の林家、炭焼き組合、森林組合が連携し、雑木林をシイタケや薪炭の原木林として再生。シイタケ原木1本150円、1ヘクタール5千本で計75万円。ほかにキノコの菌床用は製紙用チップ材の2倍(6、7千円/ト)、クリやヤマザクラは4m材に、家具や工芸材の用材も生産、落葉は15^{kg}、400円で町へ。あらゆる場面、方法で山の資源を収入に変え、自然の循環を守る。販路開拓が重要。

■高知県いの町:土佐の森・救援隊

新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)が採択した7つの「バイオマスエネルギー地域システム化事業」のひとつである「高知県仁淀川流域エネルギー自給システムの構築」の林地残材「小規模収集システム」を担当。小規模林家や新林ボランティアが林地残材を収集、チップ工場に軽トラで搬入すると1トン3000円に。これに地域の協賛店で使える3000円分の地域通貨を上乗せ。

■島根県浜田町弥栄町:学生人材バンク

登録した学生と地域を結びつけることを目指し、鳥取大学の元大学院生が主宰。「学生人材バンク」を創設。登録した学生が募集のあった農山村地域に出向き、田植え、稲刈り、収穫作業、水路掃除、イノシシ柵の設置などにボランティアで従事。地域の祭りの手伝い、甘酒づくり、ソバづくり、山菜バイキングなどの田舎体験メニューもある。最近では地域のコンサル事業にも乗り出す。

■滋賀県高島市:「森を耕す」寄り合いプロジェクト

企業のCSRとして企画。地元NPO、小学校、地元大学の研究者、行政などが連携し、「大地を耕して食べ物を得るように、森を耕し、森のめぐみを得よう」をコンセプトに、「森の総点検」「マツタケ山づくり」「どんぐりプロジェクト(朽木東小学校の総合学習)」「さとやま苗木づくり」「山のめぐみフォーラム」「シカプロジェクト」「さとやま食堂プロジェクト」「WEB図鑑づくり」などを展開している。

(以上、要約報告:編集子)

■「茅葺き文化の継承とこれからの茅葺き」
2011年度第3回東京楽習会報告 稲 貴夫

本年度第三回目の東京楽習会が、去る1月29日(日)午前10時より、中央区銀座の「銀座区民館」を会場に、会員会友他18名が参加して開催されました。講師には、日本茅葺き文化協会理事の上野弥智代さんをお迎えし、「茅葺き文化の継承とこれからの茅葺き」をテーマとして、全国の茅場や茅葺き民家の現況と課題について、現場の写真をたくさん用いながらお話をいただきました。

最初に、秋津洲(あきつしま)、豊葦原瑞穂国という日本の古称や、万葉集の「はたすすき尾花逆葺き黒木もち造れる室は万代までに」という歌を取り上げ、「草原の国」であった古代大和の自然の姿に思いを馳せながら、現代の日本において、ススキやヨシ、カリヤスなどの草原を茅場として保全している各地の活動を解説いただきました。その内容は多岐にわたり、すべて紹介することはできませんが、何れも地元の人々と民間のボランティアが協力しあい、火入れや茅刈り技術の継承や向上、そして安全管理体制についても理解を求めながら取り組んでいる事例を紹介いただきました。

特に、筑波研究学園都市にある高エネルギー加速器研究機構の敷地内では、地下に巨大な加速器のある場所が茅場として管理されている事例は興味深いものでした。また、萱刈りの方法や技術もそれぞれ工夫がされており、町の鉄工所に発注して制作した簡単な構造の茅の結束機を活用している事例も紹介いただきました。また、断熱材として上ノ原産の茅も活用されている会津若松の仮設住宅の状況も報告いただき、入居者からは「暖かくて過ごしやすい」という声もあがっているとのことでした。

いよいよ今年は全国草原サミットがみなかみ町で開催されますが、茅場を保全しその活用をはかってゆくことが、豊かな文化の継承になることも確認できた有意義な楽習会となりました。



■第9回全国草原サミット in みなかみ
- 開催案内 -

来る10月27日～29日、関東では初の全国草原サミットがみなかみ町で開催されます。開催概要は別紙ご案内の通りですが、3日間とも、上ノ原「入会の森」を中心に藤原集落内で行われます。過去10年、地元ならびに町役場と協働して取り組んできた成果を世に問うとともに、全国各地の活動に学ぶべき格好の機会です。時あたかも、山装う紅葉シーズン真っ盛り。ふるってご参加ください。(編集子)

開催案内は10頁をご覧ください

■11年度講座「コモンズ村ふじわら」⑧
- 参加者レポート -

2月12日～13日開催の講座「コモンズ村ふじわら」2011⑧。定番となった、かんじき雪原トレッキングと郷土料理・ボタづくり。今年も、惣一郎さんはじめロッジ「樹林」の皆さまのご指導で楽しく学び美味しくいただきました。(編集子)

◆しんしんと降る雪の中の情景 古高利男・のらえもん

「五人の子どもたちの雪遊びの姿が、私にいろいろなことを教えてくれました」とおっしゃる古高さん。ご同行いただいた山口さんとお二人のご感想です。(編集子)

今回、私の主催する「しかはま自然観察会のらえもん」の会員から1家族4名(ご夫妻、小学生、幼児)が参加してくれました。雪と存分に遊んだ新鮮な感想を寄せてくれました。

山口 三美(小学5年生)「久しぶりの雪あそびでした。かまくらを作っていたら、パパと先生が『つなげよう』といって本当につなげていました。そりすべりではだんだんコツをつかんでいきおいよくすべったら、雪が顔におもいっきりかかりました。ぼたもち?かな?それをたべた時は『味こっ!』と思ったけど、だんだんなれてきました。家ではなべにいれたよ。また行きたいな〜。」
一句詠みました。

- 雪あそび ほってすべって ああつめたい
- そりすべり いきおいつきすぎ 顔に雪
- かまくらも まさかと思ひ つながった

山口 父「子どもに還り、かまくらを作る。古高先生のかまくらとつなげようとトンネルをほる。無謀と思ったが、開通した。嬉しかった。先生がローソクをつけてくれ、中で酒・ウィスキーを飲む。空には、東京では見られない星たち。月も出てきた。月明かりに輝く木の枝の雪。このような思い出は、なかなか作れない。古民家も、夢が広がる。古民家の良さを残し、新しい何かを作りたいと思う。雪は大変と思うが、雪を素直に受け入れ、雪と仲良くつきあえば、雪は素晴らしいものを与えてくれるだろう。」

5才の大地くんも、夢中になって雪と遊んでくれました。顔を真っ白にしながらも、「つめたい」とは一言も言わずに時の経つのも忘れて遊んでいる姿を見て、私は「これが、

本物の雪体験だ！」と、とてもうれしくなりました。5人の子どもたちが主役でした。

そり・かんじき・かまくら・屋根の雪下ろし・冬の星座と、雪の恵みにたくさん触れた2日間でした。そして、宗一郎様の生きる姿にたくさんのことを考えさせられました。

- しんしんと降る雪の中の子どもたち
頬を真っ赤にしてそりとたわむれる
- 大人と子いっしょにそりにまたがって
滑れば楽し雪日の上ノ原
- 雪の坂そりで滑って降りてくる
子どもの顔は雪化粧だ
- 紀元節大雪原の上ノ原
茅のボッチを運んだところ
- 雪下ろし見るとやるとの大きがい
雪の重みはずしと伝わる
- 古民家の屋根は朽ちて綿帽子
村の掟の今を伝える
- 荒れ果てた古民家の中に目をこらす
人の臭いは遠くにあるらし
- 古民家は人が住んで生きかえる
再生の夢フツフツとわく
- ゴツゴツの太い山椒の棒で擦る
くるみとみそのぼた作りの日
- 素人の雪遊びを見守って
宗一郎さんそっとアドバイス
- かんじきのしぼり方を指南する
歩いてみせる宗一郎さん
- かまくらにローソク立てて集まれば
みんな童(わらべ)笑顔で話す
- カシオペア北極星も見つけたよ
なぜか楽しい星の観察



◆“雪ほり”の意味が分かりました 石原光恭・大学2年

遊び相手をしてやったちびっこ達から“みつ”と親しまれていた光恭さん。現場で作業を体験してみて、「雪おろし」ではなく「雪ほり」と言う意味が分かりました！（編集子）



みなかみ町が豪雪地域であることは知っていた。しかし、聞くのと実際に見るのとでは大違いであった。初日、幸運にも雪は降っていなかったが、積雪は2メートル。流雪溝と流水設備がないところは道路が凍結しており、少しでも傾斜がある場所では、スリップして動けなくなっている車もあった。人の背丈より高く積もった雪を見るのも、雪が降り止んでもほとんど融けない道路を見たのも、物心ついてから初めて経験であった。

ましてや、雪原や家の周りでの雪遊びである。雪がこんなにも楽しいものだという興奮と、雪景色の美しさに対する感動を経験した。この興奮には、子どもたちと一緒に遊んだということが大いに貢献している。地元の子どもたちと首都圏から来た子どもたちであったが、住んでいる地域は関係がなかった。10年近く見ていなかったプラスチックのそりと、足につけたスノーシューズだけで、子どもたちは様々な遊びを創った。サングラスをかけた大人はゾンビになり、追いかけてこをした。雪原にある小山の頂上を目指せば、それは冒険だった。それだけではなく、そりで滑る時にはきちんと順番を守っていた。自分より小さい子には順番を譲ったり、一緒に滑ってあげたりしていた。一緒に遊んでいたから、遊びを創り、遊びに学ぶ場所がそこにはあったことを知ることができた。保護者の方からは「子どもの面倒を見てくれてありがとう」と声をかけて頂いた。しかし、こちらとしてはむしろ子どもたちが手を引いてくれたおかげで、夢中になって、全力で遊ぶことができたのだと感じた。子どもたちは遊びの天才である、ということを目で確かめることができた。また、豊かな自然環境があつてこそ、子どもたちの創造力が活かされることも再確認することができた。

しかし、当然ながら豪雪地域での生活とは楽しいだけではない。都市に住む私たちからしたら2メートルで十分に驚くべき積雪量だが、十数年前までは3メートルの積雪が珍しくなかったそう。そのような雪国の苦労を垣間見ることができたのが、2日目の再生中の古民家での「雪ほり」体験だった。ちょうど2日目は朝から雪が降っていた。

今回の作業を通して「雪ほり」体験には、2種類の意味があることがわかった。雪を文字通り「掘る」という意味と、もう1つは「放り投げる」という意味であった。前日の晩から降り積もった新雪は、30センチメートルほど。新雪は軽くてやわらかいので「放り」易い。一方で、それ以前から積もっている雪は押し固められていて、「掘る」必要がある。後者の方が、雪が固く重いので大変な作業であった。ただ、「雪ほり」自体が慣れない作業であったので、特にスノーダンプの使い方に苦労した。約1時間半の作業であったが、腰や腕にかなり疲れが溜まった。身を持って雪国における日々の苦労を経験した。

今回は、冬の藤原を満喫することができた。楽しかったのはもちろんだが、斜陽で輝く、雪舞う上ノ原は本当に美しかった。自然の中でしか見ることができない景色があることを、改めて確認することができた。今後、藤原の楽しさと美しさを伝えるべく、学生部の仲間づくりを進めたい。まずは、大学の新歓時期である4月までに、学生部をひとつの学生団体として再編成したい。

◆冬のみなかみ。

福島さら・8歳

雪遊びが大好きな福島さらちゃん。冬の藤原に幾度通ったことでしょうか。今年は、仲よしになった民宿「樹林」のアイドル犬・米(こめ)ちゃんと皆で楽しんだソリ遊びの思い出を絵にしてくれました。(編集子)

まず、き林にとうちやくして、かまくらをつくりました。うんちがあつてくさかったです。大人はトンネルをつくっていました。山のぼりに上のはらに行きました。でも、山にのぼらず、そりあそびをしました。手がつめたかったです。そういちろうさんにそのすべり方を教えてもらいました。そういちろうさんといっしょにすべりました。はやくて、目をあけたままじゃ、いられませんでした。



2日目は、そういちろうさんの米という犬といっしょにかまくらに入って、でもすぐに米はにげようとしてました。それで、くさりにつないで、そりをしました。そのあと、かずくんとるなちゃんのみみちゃんとひろくんで、こみんかに行きました。そとでゆきあそびをして、こ

みんかに火がついていたから、手をあたためました。き林にかえって、ぼたをいっこと半分たべました。

おわり。



■12年度講座「コモンズ村ふじわら」①、②

—参加者レポート—

今年度のフィールド実践講座「コモンズ村ふじわら」は、4月のオープニングから5月と連続して、防火帯造りと古民家整備活動に励みました。“のらえもん”の古高さん・山口さんのほとばしる情熱と学生諸兄のヤングパワーの活躍で作業は大いにはかどりました。(編集子)

◆地域の人々とのコミュニケーション 中島郁生

環境プランナーの中島さん。4月28日～29日の活動に参加された翌日、ご持参の自転車で青木沢峠と芦ノ田峠を越えてお帰りになったそうです。見かけとは全く違うスーパーマンでした！(編集子)



4月28・29日のコモンズ村・藤原に、私の所属する環境プランニング研究会で参加することになっていましたが、野焼きの中止により、私一人のだけの参加となりました。

常々人間は地球全体の環境の中で、共生して生存していると考えていますが、森林塾青水に参加させていただき、共生するためにはこの里山を守っていかれる活動、そこに生活している方たちとのコミュニケーションが大切だと、さらに強く感じさせました。貴重な体験をさせていただいた、清水塾長とメンバーと方に感謝、講座後の楽しみまで準備していただき、古道を散策し藤原の人々の歴史を感じさせていただきました。感謝

◆決意表明 石原光恭・学生プロジェクトチームリーダー「学生部」改め「学生プロジェクトチーム」のリーダー・石原さんの、オープニングプログラムに参加しての頼もしい決意表明です。温かく見守りつつ応援してやって下さい！（編集子）



4月に訪れた藤原は雪解け水で川の量が増しており、集落全体が賑わっているようであった。ただ、フィールドである上ノ原「入会の森」は標高約1000メートル。ふきのとうが散見されたのみで草花の芽吹くほどではなく、案外寒かった。残雪も多かった。

去年は参加できなかったが、今年は山の口開けに参加することができた。本年度より学生プロジェクトチーム(旧・学生部)の代表を務めさせていただくこともあり、改めて決意したことがある。

それは、学生による主体的な活動を実践していくことである。発足から今年で3年目になる。学生たちで企画を練り、10月末の全国草原サミットまでに何としても成果をあげたい。というのも、みなかみ町での全国草原サミットの開催は関東では初めてのことであり、流域コモンズをより一層広げていくためにも、このサミットの成功は必要不可欠であるからだ。

そのアピールに際して、学生が主体的に関わって独自の企画に取り組み成果を残しているという点を何としても内外に示したい。なぜなら、私たち学生は藤原から日本の地域社会の在り方を見つめ直しているのであり、藤原での学びは間違いなく成長の機会となっているからである。まずは、藤原の暮らしや文化、自然をすべて自分の経験として語れるようになりたい。また、「なぜ藤原へ向かうのか」という価値観に対する問いに真正面から応えたい。この二つを通して藤原と主体的に関わる姿勢をつくり、上記のような貢献をしていきたい。

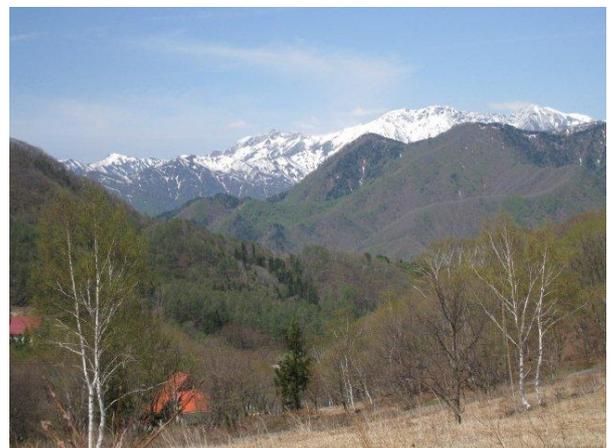
この秋、学生が主体的で具体的な成果をあげ、全国草原サミットというまたとない機会を利用し、どこまで社会に影響を与えられるのか。自身たちの挑戦の一年としたい。

◆初参加を終えて 保苺凱人・学生PT
最近のご自分の興味関心の領域を真剣に探求しているという大学3年生の保苺さん。藤原でのフィールド体験から何を気付かれたのでしょうか。(編集子)

森林塾青水のごことは、学生部代表の石原光恭くんのお兄さんに紹介を受けて知りました。自然好きで生物多様性やまちづくりに興味があり、埼玉県在住の自分にとって、その活動内容は大変魅力的に思えました。また、もう3年生ということで就職活動が間近に迫り、最近ではより真剣に自分の興味関心を探求しています。そこで活動している人の話を聞き、フィールドではどんなことを感じるのか確認したいという気持ちから参加を決めました。

行ってまず感じたのは、自然の美しさです。新緑の森、ヤマザクラ、様々な種類の草花、そして広大な草原地帯。さらに棚田や茅葺屋根の家など、まさに日本の原風景といえる景色が大変印象的でした。だいぶ寒かったですが、侵入木の伐採も楽しめましたし、一仕事したあとのお風呂や料理は最高でした。食後の懇親会では、家庭での日常からなぜ活動しているかという話まで、いろいろなお話を聞くことができました。普段は親や同年代の友人としか話す機会を持たない自分にとって、人生経験豊富な先輩方との会話は、多くの気づきと学びがありました。

さて、目的だった興味関心の探求ですが、しっかり収穫がありました。意外にも、草花や生き物の観察より、木馬道の修復作業に面白さを感じている自分に気が付いたのです。人が歩くことが道を作ることにつながる。さらに道の谷側に木の枝を並べておくと、冬場雪がせき止められて道が崩れない。ナタ等を持って入れれば道を遮る草木を切って、より歩きやすい道になる。価値を失っていた古道に価値を見出すという企画に強い魅力を感じるとともに、そこに至るまでの土地所有者との交渉といった運営をやってみたいと思いました。フットパスに限らず、活動理念や豊富なアイデア、そしてそれを実行に移す行動力に圧倒されました。「このフィールドで何かできないか」という視



点で臨んだのですが、自分の発想を超える活動が数多く行われており、ただただ感心してばかりいました。

懇親会の席で「心の故郷」という話が出ましたが、ここは

まさにそのような場所であると実感しました。一緒に参加していた学生部の長島くんが言っていたように、自分もふじわらの四季を五感で感じてみたいです。どこまで関わるかはわかりませんが、これから若者として何がしていけるのか、自分なりに考えて行動していければと思います。

最後に、このような貴重な体験をさせていただきだけでなく、環境支払いとして交通費まで支給して下さったことを心より感謝いたします。どうもありがとうございました。

◆水の出発点で感じたこと 長島 匠・学生 PT
創造理工学部環境資源工学科1年の長島さん。防火帯づくりの作業の合間に、草の上で気持ちよさそうに寝ころんでいました。さて、何を感じどんな思いをもたれたのでしょうか。(編集子)

草原という環境が日本にあるのだろうか？極端かもしれないがこれがコモンズふじわらの話を聞いた時に最初に思ったことであった。そのような印象を持ちつつ藤原に入った私は様々な面で感じる事となった。

まずは何とんでも草原の姿そのものに驚かされた。草の上で寝転ぶと何とも心地よい。吹く風を感じ、開けた視界の先に見える森林や山々を見る。人生で初となる体験に私は夢中になってしまい時間さえあれば寝転んでいた。教わらずともこの場所を守る大切さを感じた。

もう一つの点は会う人々の活発さである。青水の方も藤原の地域の方もとにかく元気であった。元気があるから活動も活発さを感じる。あの草原を守る、藤原の地区を盛り上げるとい目標に対して突き進んでいる。古民家再生プロジェクト等に関わってそのような事を強く感じた。

特筆する点を挙げたが他にも私は多くの強い印象を受けた。結果的に私はこの藤原という地区にとっても興味を持った。あの草原の四季を見てみたいし、もっと藤原の住民の方々と話をしたい。これからもこの場所で学ばせて頂きたいと思う。

帰り道は上越線に乗りつつ併走する利根川を見ながらの旅路となった。私達の飲み水になるであろう水が平野へ流れこんでいく。私はこの水の出発点を思い返さずにはいられなかった。



藤原の“ほっと”ショット・コーナー②

地元・中村智子さんの、見てほっとする“photo”ショット・コーナー。好評だった前号の野鳥・イカルに続く第2弾は、夏鳥三羽ガラスです？！（編集子）



日本三鳴鳥のひとつ、オオルリ(上)と可愛らしいコサメビタキ(中)に美しい色彩と囀りのキビタキ(下)です。5月12日の寒い日に久保の西公園で、出会いました。寒さを凌ぐように、数羽で、飛び回っていました。(智子)

□ 編集後記 ～塾長のつぶやき～

○頼もしい学生諸兄の動き 防火帯づくりが目に見えて進捗してきた。草丈の低いうちにということで、4月、5月と2カ月連続で3日間実施。参加者は延べ60人弱でさほど多くないが、約10^{メートル}巾×長さ400^{メートル}にわたり侵入樹木を刈り払ってしまった。自らチェーンソーを手にとり陣頭指揮した海老沢幹事の采配よろしきを得たのはもとより、参加者の3割を占めた学生諸兄の活躍に拠る所も大であった。しかも、全員ノコギリ隊。人海戦術が奏功と言えるかもしれないが、それは浅薄に過ぎる。彼らは全員、自らの意思でこのプログラムを選択し活動に参加したのだ。連れてこられて戦場に投げられた兵士とは訳が違う。

6頁の石原リーダーの決意表明にも「主体的な活動の実践を」とある。来る6月9日～10日、独自企画の第1弾「ノココマ講習と上ノ原“入会のに森”散策」が組まれた。発足から3年目を迎えた「学生部」改め「学生プロジェクトチーム」の活躍に期待したい。



○ストック茅が他県の文化財の屋根材に 4月9日、ストック茅350束が福島に向かった。昨年7月、365束を被災地仮設住宅の屋根断熱材として合津若松に送り出したのに続き2回目。前回同様、日本茅葺き文化協会・上野理事経由、ストックの有無につきご照会があり、佐久間建設工業さんにお届けすることになったもの。但し、今回の行き先は同じ福島県でも奥只見、用途も茅葺き文化財の屋根替材、と異なる。しかも、前回は被災地支援ということで無償だったのに対し、今回は商業ベースにつき有償とのお申し出。代金は既に入金となり、近く必要となるであろう地元・諏訪神社の屋根替え用資金の一部にとプールされている。思うに、元・入会山であった当地の茅が他県の業者に買い取られて、文化財保全のお役に立ったという話は前代未聞の事ではないか。



聞けば、彼の地では大震災の影響もありカヤ材調達にご腐心されている由。断熱材としての新たな用途も考え合わせると、草原の環境資源を有効活用して地域に経済的効果をもたらす道筋が見えてくる。

○「水守の像」にお賽銭が！ 5月12日。防火帯づくり作業が一段落、十郎太沢の水汲み場に足を運んだ。雪解けの水がしぶきをあげて落ち込んでくる。その傍らに「水守の像」が佇んでいる。「夢工房」朝倉さんのご好意で、昨年6月にご寄贈賜り設置したばかりなのに、早くも水場の風景に馴染んで苦むしつつかある。居合わせた三好さんが「あら、お賽銭が！」と気付いてびっくり。見れば、石像の足元に硬貨が4枚。遠路はるばる美味しい水を求めて来られた方々が置いていかれたに違いない。『飲水思源』の思いが、大なり小なりあつてのことではないか。「では私も」と三好さん、「それじゃ僕も」と小生が続き、あつとういう間に感謝の気持ちが6枚に。「これじゃ、お賽銭箱置かなくちゃね」と笑い語ったことである。



○小水力発電のお勧め 5月14日。みなかみ町役場に岸町長をお訪ねし、過年度活動実績の報告・お礼と今年度活動計画の説明・協力依頼をさせてもらった。その際、「いつもの法螺を吹かせてもらいます」とお断りして、藤原地区の環境資源を活かした小水力発電導入を勧奨した。藤原には、昔から地域の水道組合があつて、供給余力は十二分。その設備と急峻な地形を生かした小水力発電所をつくる。地域で必要な量を賄った余剰電力は、利根川下流域・都市部の生協など市民団体に水とセットで供給。東南海大震災に備えて、被災時仮住居の提供と併せた安心パッケージにする。再生可能エネルギー買取り制度も充実しつつある。「売れること事請け合いです」と出撃合図の法螺貝を吹かせていただいた次第。後日、月夜野や谷川地区において先進事例があると聞いた。首都圏の水瓶そのものというべき藤原は、安心パッケージのモデル事業創造に最適の立地と思うが如何。



祝、
優空(ゆうあ)くん誕生

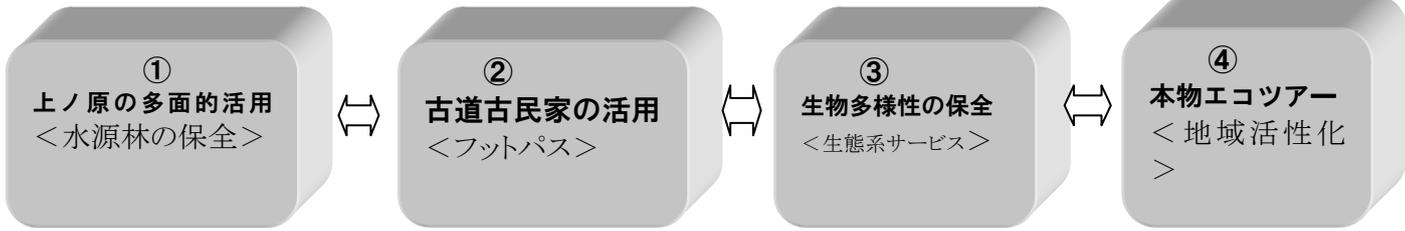
鯉のぼり
少年の夢
空に舞う

(青)

2012年度の主な活動計画・日程

	講座「コモンズ村・ふじわら」	自然ふれあい学習 古民家再生、ほか	エコビレッジプロジェクト 生物多様性地域戦略づくり	幹事会／学習会 地元行事、など
4月 ～ 6月	① 4/28 (土) ～29 (日) ・「山の口明け」行事 ・侵入木の除伐 ・ミズナラ林の林相調べ ・古民家の整備 ② 5/12 (土) ～13 (日) ・ミズナラ林：薪づくり&キノコ植菌 ・古道（木馬道）のメンテナンス ・フットパス地図づくり着手 ③ 6/16(土)～17 (日) ・ミズナラ林整備～歩道&樹名板の設置 ・生き物調べ（モニ 1000①）&外来種除去 ・古民家の整備 ・流域協議会	4/28～5/6 古民家① 5/ 古民家② 5/19 麗澤中学（樹木観察会） 6/ 古民家③	エコビレッジプロジェクト 生物多様性地域戦略づくり	4/21(土) 総会 セミナー 4/9 (水) 幹事会 4/11 (水) 幹事会 5/9 (水) 幹事会 6/6 (水) 幹事会 6/16 流域協議会① 6/24 学習会① 6/ 武尊山山開き
7月 ～ 9月	④ 7/14 (土) ～15 (日) ・野焼き用「防火帯」づくり （ススキの青刈り→マルチ/肥料として利用） ・生き物調べ（モニ 1000②） ⑤ 9/22 (土) ～23 (日) ・ミズナラ林：伐採（除伐）&生き物調べ ・野点→秋の虫の音と星空観賞	・7/6 麗澤中学校 ・8/ 古民家④ ・8/ 地元児童野外学習会 ・8/25 三番瀬 s/c ・9/ 茅風交流会	生物多様性地域戦略づくり	7/4 (水) 幹事会 8/8 (水) 幹事会 8/ 学習会② 8/17 諏訪神社祭 8/19 藤原区民祭 9/5 (水) 幹事会 9/22 流域協議会②
10月 ～ 12月	⑥ 10/27 (土) ～29 (月) 全国草原サミット・シンポジウム ・茅刈り講習会・検定 ・エクスカッション、分科会、交流会、など ⑦ 11/17 (土) ～18 (日) ・茅刈りと茅の運び出し ・割り薪づくり ・「山の口終い」行事	・10/ 地元児童茅刈り ・10月～12月 古民家⑤～⑦	生物多様性地域戦略づくり	10/3 (水) 幹事会 11/7 (水) 幹事会 11/11 学習会③ 12/5 (水) 幹事会
1月 ～ 3月	⑧ 2/10 (土) ～11 (日) ・かんじき雪原トレッキング ・「雪堀り」お助け隊 ・地域の食文化を学び味わう	・1/ 古民家⑧ 雪堀り ・3/ 古民家⑨ ・3/ 茅風交流会	生物多様性地域戦略づくり	1/9 (水) 幹事会 1/ 学習会④ 2/6 (水) 幹事会 3/6 (水) 幹事会

『飲水思源』の実践 = 原風景と生態系サービスを大切にす ⇒ 流域コモンズの形成



第9回
全国

～川でつながる草原の恵み～
流域コモンズで分かち合う、
水源地域の豊かな自然とくらし



草原

サミット・シンポジウム

in みなかみ

期間：2012年10月27日(土)
～29日(月)
会場：みなかみ町立藤原
小中学校体育館
(群馬県利根郡みなかみ町)

10/27(土)
13時～
16時

現地見学会
●上ノ原「入会の森」
の草原と藤原地区
雲越家住宅・諏訪
神社などの見学
●茅刈り体験

28(日)
9時～
16時半

第9回 全国草原
シンポジウム、パネル展示
【基調講演】
里山における人の営みが、生物多様な
環境を維持
養父 志乃夫氏(和歌山大学システム工学部教授)
【分科会テーマ】
●地域の生態系サービスの見える化ーマップづくりー
●草資源(茅)の多面的な利用とこれからの茅葺き
●流域コモンズによる生物多様性保全と価値評価
●草原と観光(ニューツーリズム)

29(月)
9時～
12時

第9回
全国草原
サミット
(公開)

<http://commonf.net/9thsogen>

■主催：第9回全国草原サミット・シンポジウム in みなかみ実行委員会
みなかみ町、みなかみ町教育委員会、みなかみ町商工会、みなかみ町観光協会、森林塾青水、全国草原再生ネットワーク、
みなかみ町藤原上区、みなかみ町藤原中区、みなかみ町藤原下区、宝台樹民信組合、水上高原藤原民信組合、藤原案内人
クラブ、宝台樹活性化委員会、日本自然保護協会、日本茅葺き文化協会、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング、町田工業
後援(予定)：環境省、林野庁、群馬県、上毛新聞社、群馬テレビ、FMくま、森林文化協会

■事務局
みなかみ町役場 環境課 環境政策グループ
〒379-1305 群馬県利根郡みなかみ町後閑 318
TEL：0278-25-5003/FAX：0278-62-2291
E-mail sh-kimura@town.minakami.gunma.jp